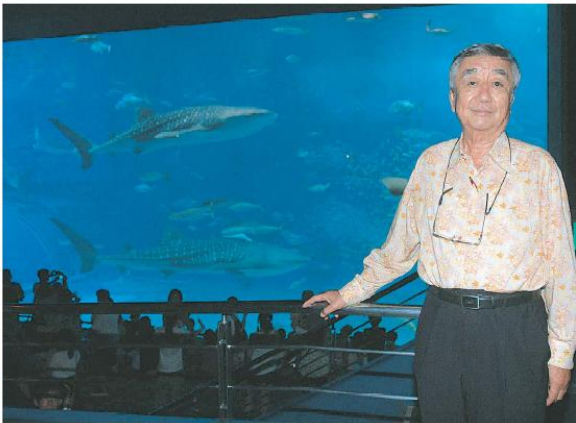


内田水族館長が退任

30年間 水族館長を務めた内田詮三さん。現在海洋博研究センターの研究顧問を務める。本部町の沖縄美ら海水族館



「世界一」こだわり30年

☆「沖縄美ら海水族館」が持つ「世界一」や「世界初」はいくつあるかな？調べてみよう。

【本部】沖縄美ら海水族館の館長を長年わたって務めた内田詮三さん(76)がこのほど退任した。旧水族館の館長に就任して以来30年、ジンベエザメの飼育やマンタの繁殖など「世界一」「世界初」にこだわり水族館と向かい合った。海洋生物の研究にも尽力し、「水族館がこれまで得た知識をもっと活用させたい」と次の目標を見据えている。

本部

今後も知識活用へ

内田さんは静岡県伊東「種だつたため、「沖縄」市の出身で、東京外語大「海の生物はまだ調べられ卒業後に地元の水族館「ていなく」と実感。沖縄に入社した。沖縄と関わ「近海の海洋生物の調査にり始めたきつかけは沖縄力」を注いだ。国際海洋博覧会だった。1981年に美ら海水族館の前身の国営沖縄記念公園水族館の館長に就任。日本で初めて記録された。世界で初めてジンベエ

エザメの長期飼育に成功した。当時国際的なシンポジウムで高い評価を得て『世界一』とのお墨付きをもらった。そこから、さらに沖縄の海の魅力に取りつかれた。沖縄周辺海域における板鰐類の繁殖生態に関する研究で東京大学大学院へ学術論文を提出し、博士号(農学)を取得した。2002年にオープンした美ら海水族館には構想段階から関わった。沖縄の豊かなサンゴ礁を表現することや、ジンベエザメが直立して食事をできるように水深10m、幅35m、奥行き27mの水槽を設置することにこだわった。

内田さんは現在、海洋博研究センターで研究顧問を務めて後輩の指導に当たっている。「水族館が持っている資料はまさに宝だ。その宝が持ち腐れにならないように価値のある資料をどんどん発表し、活用していききたい」。瞳を輝かせ、夢を語った。(平安太)

(2011年8月22日付 24面)

☆内田さんにメッセージを送りましょう。

年 組 名前